

令和6年度 寄附受け入れ状況

寄附件数	7,079件
寄付額	198,312,000円

活用事業のご紹介

○長期滞在施設運営促進事業

大月町では「これからの地域づくり」に向け、国内外のアーティストや作家、研究者、企業などの活動を支援し、地域における交流や教育などに参加してもらうことにより、芸術・文化・科学に関する教育の推進や地域文化の保護・継承、新たな産業の創出につなげる取り組みを進めています。

令和4年度、このための活動拠点となる文化教育交流拠点「COSA」（こーさ、正式名称：大月町長期滞在複合施設）を、2001年に閉校した旧小才角小学校の校舎を再生して整備しました。

運営が開始されたCOSAでは、地域の美しくゆたかな自然と文化を活かし、自然・文化の中にある知恵や技（科学）、アートに「みて、ふれて、感じる」ことができる機会を提供するため、地域の自然や文化、アート、ものづくりをテーマにした展示、教育プログラム、ワークショップなど様々なイベント、体験プログラムを実施、支援しています。

大月町長期滞在複合施設「COSA」公式ホームページ <https://www.cosa.info/>



○檜西園地整備事業

高知県の最西端に位置する本町は、足摺宇和海国立公園に指定された海岸部を中心に豊かな自然環境を有し、豊富な魚種と色とりどりのサンゴ礁に出会える「柏島」をはじめ手付かずの美しい風景、文化や食の魅力が多く存在しており、それらの観光資源を活かし、観光産業の振興を図っています。

しかし、本町における観光産業の構造的な問題として、柏島エリアにおけるダイビングなどの集客コンテンツ以外の観光拠点、コンテンツが不足している点や、地域内で楽しめるアクティビティや宿泊拠点などが少ないために長期滞在型の観光モデルが普及していない点、またコンテンツが不足する夏以外の閑散期への対応などが課題としてあげられていました。

それらの課題を解決すべく、令和5年度、既存の観光拠点との連携による町全体の観光需要を向上させるため、滞在型観光拠点としてグランピング施設「大月アウトドアフィールドKASHINISHI」を整備しました。地域内の拠点間連携による回遊性の高い観光地づくりを推進し、年間を通じた誘客促進、観光産業の活性化に繋がっていきます。

令和6年度には、利用者の満足度を高め、かつ町内事業者への波及効果の高い施設となるよう、檜西園地及びその周辺の自然景観を活かすデザインを取り入れたバレルサウナを整備しました。

大月アウトドアフィールドKASHINISHI 公式ホームページ <https://kashinishienchi.jp/>

